



善正寺だより

掲示板法話

無条件に許され、賜るいのちには

喜びの泉が湧き出る

(沖縄県・志慶真文雄師)

いよいよ師走。まもなく一年が終わろうとしています。この季節になると我々中青年は決まって「一年が早いね。あっという間の一年だね」と嘆きます。歳を取ると、なぜ速く感じるのでしょうか？ 答えは簡単。たとえば、十歳の子供が四歳くらいから物心つくとするれば、六年の経験から一年が6分の1の速さを感じられる。しかし、六十四歳の小生にとつては、一年が60分の1の速さになりますから、十倍のスピードです。年齢を重ねるにつれて、その速さが加速度的に速く感じられるのは当然です。

でも、「慌しい」という感覚はこうした物理的な受け止め方だけに由来するわけではありません。歳はとりたくない、病気で寝込みたくない。死にたくない、という現状への執着心が「慌しい」という感覚の裏側に潜んでいます。「慌しい」という漢字は「心が荒れる」という意味を表わします。だから、人は皆、老病死の苦しみの世界を超えることができない限り、慌しく、空しく終わっていくのだよ、とお釈迦様は言われます。

酸素吸入器なしに一瞬たりとも生きることのできない身ながらも、十月の講演で我々に感動を頂いた前川多恵子先生の心の軌跡を訪ねますと、沖縄で小児科医を勤める志慶真文雄氏の存在に行き当たります。医院を開業すると同時に、聞法道場を設けられた志慶真先生は、十歳の時、星空を眺めていた時ふと、「いつかこの星空を見られなくなる、死んでしまう」という思いに襲われ、悩み、求道の旅が始まった人です。この医師であり、在家仏教者でもある方のホームページ(まなざし仏教塾)を開くと、トップページに素晴らしい言葉を見つけました。

「人間を支えているものは、人間でないものも支えている。生命を支えているものは、生命でないものも支えている。生を支えているものは、死も支えている。これは私たちの置かれている世界の根源的な事実。無条件に許され、一切は賜ったものであると思えたとき、ちっぽけな心に、尽きることのない喜びの泉が湧き出る。嬉しいとき、悲しいとき、

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

☆12月5日(土)夜7時半

「お内仏報恩講」 庫裡にて

新しくなったお内仏にお誘い合わせて是非お参り下さい！
簡単な粗食を用意します。

予告☆除夜の鐘:12/31夜11時45分 誰でも可

☆元旦会:1/1朝9時より本堂で「正信偈」家族揃ってどうぞ

♪三重組コーラス♪

※12/8(火)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問35回目！

※12/12(土)夜7時半 小杉練習

◇来年度御堂演奏会の楽譜を早めにお申し込み下さい。

来年予定4/25愛知県体育館お待ち受け、5/20三重組仏婦総会、6/27四日市文化会館三重組お待ち受け、7/7名古屋別院音楽祭、毎月コーラス行事満載です。ご協力よろしく！

◇キッズサンガ

12/31夜除夜の鐘、1/1朝9時元旦会(お年玉付)

※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもつけます！年中無休です

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索 OK。[住職と坊守のつれづれ日記](毎日更新)と新着情報が好評。開設1年4ヶ月でアクセス14,000回 コメントやメール相談が増加。



苦しいとき、つらいとき、さびしいとき、不思議の真只中で、いのちの根源へナムして生きる」。

何という大らかな、落ち着いた境地でしようか？ 幾重もの人生苦に絡め取られていた前川さんは、この先生の導きによって「許し、許される世界」への一歩を踏み出されたのでした。

私たちが心の自由を取り戻して、この人生を乗り越えて生きようではありませんが。

★お悔やみ申し上げます★
★服部親三機(八十二歳・十一月二日)
亡(涙)一色町 合掌
★片岡栄代機(六十一歳・十一月七日)
亡(西阿倉川) 合掌



自主的に境内を掃除する仲良し4人組

坊守スケッチ

人生へ入れ歯

まあ、何とも可笑しなタイトルで、すみません。寺族春秋という雑誌に、先頃亡くなられた松原泰道師を偲ぶ追悼文が掲載され、菅野日彰氏(海長寺貫主)が一文を投稿していました。松原先生は七月二十七日に百一歳で還化されるまで布教されました。『私は死したその足で地獄に行き説法する』と言われ、今頃何人かを救い出しておられるでしょう。百歳を超えても天眼鏡で仏教書や古典に親しみ、筆まめで沢山の心に心のこもった手紙を書かれました。まさしく日本一の布教者・求道者です。私の娘が婿を迎える時、先生から『お嫁さんを迎えるのも、お婿さんを迎えるのも一緒。《入れ歯》ですよ』と言われました。『どういうことですか?』と聞くと「慣れるのに三年かかります!」と応えられました。その教えを心に刻み、今日では《双方が入れ歯だ》と受け止め、更に我が儘者の多い日本人に『人生百般入れ歯論』と語っています。

私はまだ入れ歯のお世話になっていないので分かりませんが、入れ歯経験者の話によると「せつかく高いお金をかけて作ったのに、少しも合わないあの歯医者に腹が立つ。我慢できないので、別の歯医者で作り直したわ」という不満をよく聞きます。



また一方では「何日もお金と時間を掛けて作っても、所詮他人の歯。短時間で出来る歯医者で作って、後は慣れるまで辛抱しているさ。ワツハハ」と屈託なく笑い飛ばして、何でも食べる元氣なお年寄りもいました。絶えず不平不満を言って、自分の納得できるまで追及するのが幸せなのか、ある程度辛抱しながら、受容していくのが幸せなのか、それは本人次第です。先日、息子夫婦と三世同居するために、新しい家を建てる事に悩んでいるお姑さんから相談を受けました。

「若夫婦が『新しい家の自分達の居間やキッチンが親夫婦に覗いて欲しくない。遠い親戚の付き合いは、これからは切っていく』と言っています。母屋の跡取り息子なのに情けない。親夫婦にお金だけ出させて、顔と口は出すなと言うことかしら?」と爆発寸前。

「入れ歯は三年で慣れる」と松原泰道師は言われますが、嫁・姑の問題はまさしく《永久に続く入れ歯論》です。

「お互いにどちらが、どちらに合わせるということではなく、お互いの意見を尊重し合って、譲り合う所は譲って辛抱することが必要ね。新しい家に住むためにはお互いの思いやりが一番。気持ちバラバラな時でも、一緒に仏壇にお参りする時は、老夫婦も若夫婦も同じ方向を向くから、ご先祖もきつと喜ばれるわよ」と私は言いました。

昔は法事を勤めることが、次の世代の人を育てる人間教育の機会でしたが、現在はそれが見失われています。「辛抱や受容、譲り合いや思いやり」という言葉は、共に生きていく上で、大事なことだと私は思います。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆歯を削る歯科医の腹部 耳に聞く

腹虫ググー 口中ガーガ

☆予約の世 待つ客居らぬ 理髪店

世間話も マスターばかり

☆久しぶり夢に出てきて 亡き父は

我に気付かず 大根蒔きをり

四日市市 釈恩厚

☆生きている幸せ 今朝も歩けます

明けの明星も 仰げます

四日市市 釈弘蓮

☆自力を尽くして 他力に出会う

四日市市 A.O

☆許されて 与えられたる

この席も 座らせ賜うな

弥陀のはたらき

☆今という 光の中に 抱かれて

夢見心で 聞くソナタかな

☆ホットユー、☆

☆新しくなった庫裡の仏壇で十二月

五日(土)夜七時半より「お内仏報恩

講」を勤めます。皆さんお誘い合わせ

てお参り下さい。粗食用意します。

☆「報恩講」のお知らせ・来年一月十一

日(月)午後と夜/十二日(火)午前・

講師・ルンビニ園理事長・藤大慶先生(大

阪)一年間の最大行事。お楽しみに!

☆善正寺のホームページ。仏事に関する相談、お悩み等気軽に。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」がおススメ。開設一年四ヶ月、毎日四十回から五十回アクセス

♪三重組コーラス♪

☆陽光苑 十二月八日(火)三十五回目

☆十二月十二日(土)夜小杉練習

※来年度御堂演奏会楽譜、全員がご購入下さい。CD付二千円。

※来年四月二十五日東海教区お待ち

受け音楽法要・愛知県体育館・三重組コ

ーラス出演者早急に募集中!

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇十二月三十一日夜十一時四十五分

より「除夜の鐘」

◇「元旦会」(がんばらんえ)朝九時より

本堂で正信偶(お年玉付き)・家族揃っ

てどうぞ 夕方五時の鐘撞きは毎日。

カンバ有難う☆

芝田さま様・KT様・他お志・切手有

難うございました。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一九二号をお届けします。◇秋が駆け抜けて、例年になく寒い師走を迎えようとしています。◇寒い朝、早く起きると実に星空がきれいで、大宇宙のかなたから、途方もなく長い時間をかけて我に届けられる光の輝きに魅入られます。◇狭い世界から広大な世界に眼を見開いて慌しい浮世を生きたいと思えます。この一年ご愛読有難うございました。よいお年を!

21世紀も10年が経過して明るく未来が待っているかと思いきや、昨今の身の毛もよだつような事件が氾濫しています。自分の欲望を満たす為なら手段を選ばない身勝手な極悪事件、犯人は恵まれた家庭に育ち、教育を受けたにも拘らずどこでどう凶車が狂ったのでしょいか？、もしその原因が分かれば負の連鎖にブレーキがかかると思うのです。犯人達の親は団塊世代、戦後のベビーブームに生まれ、厳しい競争に勝ち抜き、点数や成果で人間の値打ちや幸せの度合いを判断した世代です。隣に困っている人がいても「我が子さえ良ければ」と個人主義を優先。「老後は子供に頼りたくない」と親世代、子世代を分断してそれが自由な生き方と尊重。耳障りのいい言葉に踊らされて家族やご先祖、近所つき合いを疎かにしてきました。ホームページのつれづれ日記を見た母親から「私が育った町にはお寺との関わりが一切ありませんでした。子供が毎夕5時の鐘を撞かせてもらい、境内で遊ばせて頂き感謝しています」というメールを頂きました。私も「近頃の子供はしつけがなくてないと失望することもあります。自主的に掃除をしてくれる子供もいて救われます。地域の皆さんと協力して、この子供達の純粋無垢な心を温かく見守り育てていきたいと思っております」と返信しました。団塊の皆さん、孫のような子供達の心の教育に一緒に手を差し伸べ、悲惨な事件に歯止めを寄りますよう。ところで12月5日(土)夜7時半より庫裡にて「お内仏報恩講」と勤めます。新しくなってお内仏に是非お参り下さいませ。新型インフルエンザが流行します。くれぐれもご自愛下さい。

平成二十一年十二月 合掌 善正寺 坊守 拝